

## 第4回部会、WGの開催結果

### ■第4回部会

令和3年7月5日、16日にオンライン形式で3つの部会を開催し、各部会において各委員による今年度の取組状況および予定に関する情報共有及び意見交換、また、石西礁湖の現況等の表現方法について検討を行った。

#### 1. 各部会の開催概要

##### <学術調査部会>

日時：令和3年7月5日（月）10：00～12：00

出席者：23名（個人16名、団体・法人5（7名）、行政1（1名） ※重複1名）

##### <普及啓発・適正利用部会>

日時：令和3年7月16日（金）10：00～12：00

出席者：23名（個人8名、団体・法人6（9名）、行政2（10名） ※重複4名）

##### <海域・陸域対策部会>

日時：令和3年7月16日（金）13：00～15：00

出席者：23名（個人8名、団体・法人6（9名）、行政2（10名） ※重複4名）

#### 2. 今年度の取組状況および予定

事前に委員から提出された取組シートや当日の口頭説明等により、今年度の取組の実施状況および予定について共有を行った。

⇒ 資料2-2

#### 3. 部会で意見交換された事項

全部会共通で石西礁湖の現況等の表現を試みた2つのマップ案について検討を行った。部会での検討を踏まえたマップ案については資料5-2のとおりであり、このあと4. 議題（1）で扱うこととする。

<学術調査部会>

○石西礁湖の現況等の表現方法について（マップの作成）

現況把握マップ

- ・ 一般公開用赤と緑は色覚にハンデのある方でも識別できるようにする。
- ・ 赤色が見えている＝サンゴが減っているところであるという説明を加える。
- ・ 過去のデータが無いところは注釈を入れる。

サンゴ礁健全度マップ

- ・ 項目の説明は一般に理解しやすい表現に改める or 追記する。
- ・ 六角形の面積が広くバランスが良いほど健全であると表記を修正する。
- ・ SPSS ランクの最大値は 5a 以下とする。
- ・ 調査ポイントの写真をポータルサイト等で公開する。
- ・ ブダイ個体数の調査方法を付記する。
- ・ 項目については引き続き議論し、修正してバージョンアップしていく。

⇒資料5-2

- ・ さらに石西礁湖サンゴ群集モニタリング等のデータを加えて、石西礁湖の現状やレジリエンスポテンシャルを把握できるマップも 3 枚程度作成したい。

○作業チームの進捗報告

- ・ 作業チームで検討している栄養塩影響の理解と対策検討の新たなアプローチ（蓄積型リンへの着目、地下水を含む水文モデルの利用）について情報共有する。
- ・ 作業チームで考える今後の方針（蓄積型リンの試験測定、水文モデルの開発、流域毎の陸域負荷量の推定）について情報共有し、多様な主体の協力体制を構築する。
- ・ 年度内に蓄積型リンの試験測定を行い、測点配置や新たな情報など部会で情報共有し、他の試験研究の取組と連携していく。

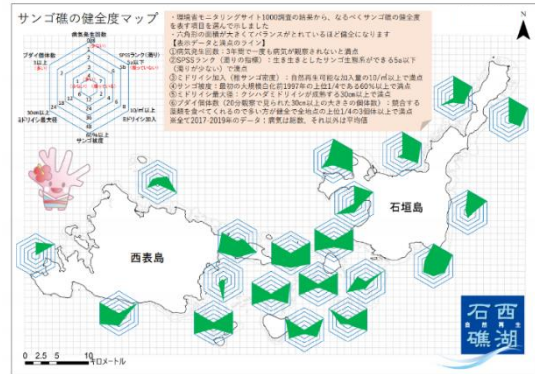
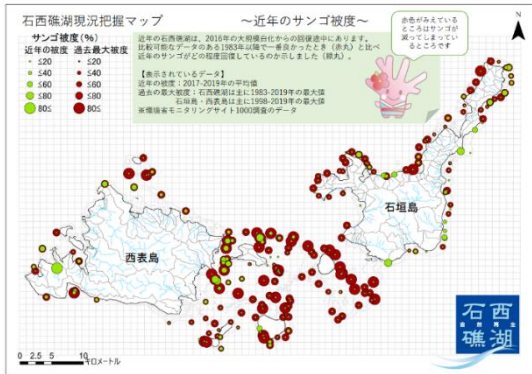


図 学術調査部会での意見などを反映させた各マップ

<普及啓発・適正利用部会>

○石西礁湖の現況等の表現方法について（マップの公開）

- ・協議会で議論してから、まずは「試行版」として公開してはどうか。
- ・ブダイや病気など主観が入りやすい項目や、SPSSなど地点による違いが大きい項目の扱いをどうするのか等、協議会で再度議論する必要がある。
- ・観光に関わる宿泊施設や航空会社の協力を得て周知を行ってはどうか。
- ・各地点の個票や写真などを別途まとめて公開するよう検討する。

○石西礁湖ポータルウェブサイトの改修について

- ・行動計画 2019-2023 を掲載し、アクセスしやすくしてほしい。
- ・ワーキンググループのページも設けたい。
- ・協議会委員リストを設け、各自のウェブサイトやSNSへのリンクを貼る。
- ・公開するマップのページに、各調査地点の現在や過去の写真を一緒に掲載してはどうか。

○石西礁湖自然再生全体構想行動計画 2019-2023 概要版について

- ・こども版のターゲット層をはっきりさせ、漢字やルビ振りをどの程度行うか検討する。また、実際に子どもたちに見せ、意見を聞いて作ってはどうか。
- ・こども版を、子どもたちが読んだ前後での意識や行動の違いを評価できるツールにできるとよい。
- ・パンフレット「豊かなサンゴの海を守るために」との役割分担や、内容の

引用を検討する。

#### <海域・陸域対策部会>

##### ○石西礁湖の現況等の表現方法について（マップの公開）

- ・協議会で議論してから、まずは「試行版」として公開してはどうか。
- ・データを追加して公開用とは別途作成するマップについて、「レジリエンスポテンシャル」という言葉は難しいので、わかりやすい名称にするとよい。また、協議会等で共有して引き続き検討したい。

##### ○陸域負荷対策（栄養塩）について

- ・リンの海域流入については畜産関係の影響が大きいことを考慮する。
- ・蓄積型リンのサンプリングは、まずは試行としてサンゴ群集モニタリング調査の地点で実施してみてもどうか。栄養塩の負荷量を考慮した調査設計を行うとよい。
- ・地下水経由の栄養塩の拡散についても調査していけるとよい。
- ・たい肥センター等を含めて経済的な側面を含めたストーリーを考える必要がある。

## ■WG

#### <漁場再生 WG>

6月30日（水）にZoomで開催。八重山漁協サンゴ種苗生産部会が管理している種苗を基にして漁場再生のロードマップ（モデル）作りを進めている。